



青森県立大間高等学校 生徒指導部通信

2025 年（令和 7 年）

3 月 25 日（火）

文責：田中大基

2024 vol.15

▼Contents

- 1 新年度に向けて
- 2 太宰治を語る

1 新年度に向けて

高校生としての自覚

（1）自らの責任で正しい善悪の判断をする。

（例：深夜徘徊や許可無く他人の情報を SNS にアップすることは悪いこと）

（2）染髪・脱色、ピアス穴を開ける等の行為はせず、容儀を整える。

（3）『飲酒・喫煙』は絶対にしない。

（4）下北管内の店舗でも万引き防止の強化をしています。万引きは絶対にしない。

（5）法律に触れる行為や高校生としてふさわしくない行為はしない。

（例：パチンコ店や夜にお酒を提供する店（食堂を除く）等への出入りはしない等）

（6）望ましい人間関係を築くために心掛けるべきことを、今一度見つめ直しましょう。

（例：他人の悪口を言わない、自分の取るべき行動を相手の立場で考える等）

（7）病気（感染症含）や怪我をした場合は学校へ連絡する。

（8）身分証（学生証）は常に携帯しておく。

（9）教室の机の中は空にし、道具の管理や家庭学習を怠らない。

※長期休業中でも、講習・面談・部活動・職員会議等で教室を使用する可能性があります。紛失・盗難のトラブルを避けるようにしましょう。



スマートフォン等におけるネット上のマナー

（1）インターネット社会でも、実生活と同じルールとマナーを守る。

（2）他人のプライバシーを尊重する。

（例：本人の許可なしで写真をアップしない、実名をあげない他）

（3）自分の住所・氏名などの個人情報を入力する時は、十分注意する。

（4）ID・パスワードの管理を徹底する。

（5）他人のミスを大げさに指摘しない。

（6）メール（LINE、インスタも含む）を送る前に、文面の内容をよく確認する。

（いったんネット上に発信した情報は、高い確率で第3者〔例：見られるとマズい人、

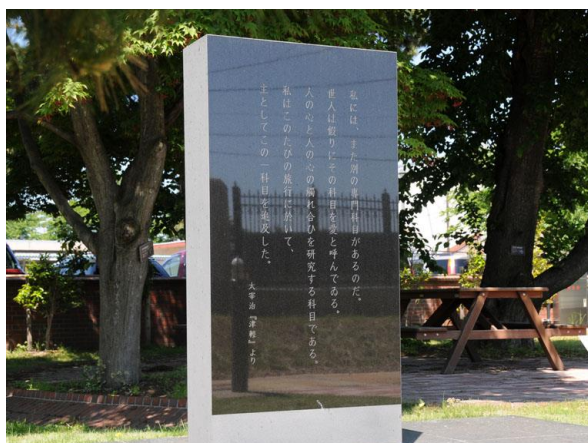
全く知らない人、あなたを騙して犯罪に巻き込もうとする人他〕に見られています）

（7）面と向かって言えないこと（悪口、誹謗中傷、バカにした発言他）は書かない。

※場合によっては、刑事罰を科せられたり、民事訴訟で損害賠償を請求される可能性があります。



2 太宰治を語る



弘前大学文京キャンパス内「太宰治文学碑」

私には、また別の専門科目があるのだ。世人は假りにその科目を愛と読んでゐる。人の心と人の心の觸れ合いを研究する科目である。私はこのたびの旅行に於いて、主としてこの一科目を追求した。

「太宰治文学碑」小説『津軽』序章の一節

1

金木町出身の文学者太宰治の実家は地域の有力者で、父と兄は国会議員を務め、本人も東京帝国大学を卒業します。経済面やキャリア面では豊かであった太宰ですが、どこか心の内に苦しさを持っていました。

19～20世紀、日本は技術を磨き世界第2位の経済大国に成長しました。しかし、ハードの側面、物質的な幸せばかり追求した結果、日本人の人間関係は干からびてしまったようにも感じます。ソフトの側面、人間の心の幸せをなおざりにしてしまつたのではないのでしょうか。

文系の学問は機械ではなく、人間（心）を対象にします。物質的な豊かさに惑わされない、心の豊かさこそが人間にとって最も重要なのかもしれません。

2

太宰治『心の王者』より

「受取れ、これはお前たちのものだ。お前たちにおれは、これを遺産として、永遠の領地として、贈ってやる。さあ、仲良く分け合うのだ。」

（中略）総ての分割の、とつくにすんだ後で、詩人がのっそりやって来た。（中略）「お前は一体何処にいたのだ。皆が地球を分け合っているとき。」詩人は答えた。「私は、あなたのお傍に。目はあなたのお顔にそそがれて、耳は天上の音楽に聞きほれていました。この心をお許し下さい。あなたの光に陶然と酔って、地上の事を忘れていたのを。」ゼウスは其の時やさしく言った。「どうすればいい？ 地球はみんな呉ってしまった。秋も、狩猟も、市場も、もう俺のものでない。お前が此の天上に、俺といたいなら時々やって来い。此所はお前の為に空けて置く！」

いかがです。学生本来の姿とは、即ち此の神の寵児、此の詩人の姿に違いないのであります。地上の営みに於ては、何の誇るところが無くとも、其の自由な高貴の憧れによって時々神と共にさえ住めるのです。

此の特権を自覚し給え。この特権を誇り給え。何時迄も君に具有している特権ではないのだぞ。ああ、それはほんの短い期間だ。その期間をこそ大事になさい。必ず自身を汚してはならぬ。地上の分割に与るのは、それは学校を卒業したら、いやでも分割に与るのだ。商人にもなれます。編輯者にもなれます。役人にもなれます。けれども、神の玉座に神と並んで座ることの出来るのは、それは学生時代以後には決してあり得ないことなのです。二度と返らぬことなのです。

三田の学生諸君。諸君は常に「陸の王者」を歌うと共に、又ひそかに「心の王者」を以て自任しなければなりません。神と共にある時期は君の生涯に、ただ此の一度であるのです。

人間（心）を豊かにするには、人と触れ合い、対話するしかありません。誰かにやってもらうのではなく、自分で触れ合うしかありません。人と触れ合う力を高校生活で身につけていきましょう。

¹ [13.pdf \(hirosaki-u. ac. jp\)](https://hirosaki-u.ac.jp/13.pdf)

² [知の回廊 第19回『心の王者 — 太宰治の『津軽』を歩く. II』\(後編\) - YouTube](#)